

授業の視点	根拠を明確にするための授業の工夫
-------	------------------

- 1 単元名 「伝統文化を楽しむ」～物語の終わり方について討論しよう～
教材名 「平家物語」（東京書籍2年）

2 単元の目標

- 古文に表れている筆者のものの見方や考え方について自分の考えをもととする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。
(読むこと)
- 古典の世界に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒に対して、平成27年度全国学力・学習状況調査国語B－3「貉」の問題を活用して、実態調査（平成29年10月31日実施、第2学年*組*人）を行った。問題は、物語の最後の一文があった方がよいか、ない方がよいかについて、自分の立場を明確にした上で、話の展開を取り上げて理由を書くというものである。その結果、話の展開を取り上げて、自分の考えと理由を書くことができた生徒は*人であった。また、自分の考えと理由は書けているが、話の展開を取り上げて書くことができていない生徒が*人、話の展開を取り上げているだけで、理由を書くことができていない生徒が*人であった。これは、これまでの読むことの指導において、文章の構成や展開、表現の仕方に着目して考えたり、根拠を明確にして自分の考えをまとめたりする学習活動が不十分であったことに起因する。そのため、これからは、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができるように指導する必要があると考える。

(2) 言語活動とその特徴

本単元の言語活動として、「平家物語」の「那須与一」と「弓流」を読み、「小学六年生に『扇の的』の場面の魅力を伝えといたら、『弓流』はあった方がよいか、ない方がよいかについて討論する」という活動を設定した。場面の終わり方をどうすればよいかの討論に向けて、自分の主張、それに対する根拠、理由づけを考える過程で、物語の構成や展開、表現の仕方に着目して分析することができ、根拠を明確にして自分の考えを述べ合うことができると考えた。したがって、本単元でねらう「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」（B読むことウ）を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

(3) 教材観

本教材「平家物語」の「扇の的」の場面は、絵本にもよく取り上げられている有名な場面である。登場人物の心情や生き方が描かれている「那須与一」は劇的な場面であり、見事に扇を射落とす臨場感あふれる描写に、一種の爽快感を得て感銘を受けるであろう。しかし、次の「弓流」を読み進める中で、その背後に流れる生死を賭けた戦いの緊迫感や無常観に気付かされる。子供向けの絵本では、那須与一が扇の的を射当てた場面で終わるものが多く、その後の残酷な場面は書かれていないことが多い。そこで、「物語の終わり方について深く考える」という討論活動を位置づけることで、物語の構成や展開に着目したり、表現の仕方とや登場人物の心情について考えたりすることとなり、根拠を明確にして自分の考えを述べ合うようになると考える。

以上のことから、「平家物語」は、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる学習をするのにふさわしい教材であると考えた。

(4) 指導観

「物語の終わり方について討論しよう」という言語活動を設定する。まず、「平家物語」のあらましを知り、作品の根底にある「無常観」について理解できるようにする。次に、「那須与一」、「弓流」を繰り返し朗読する。その際、物語の構成や展開、表現の仕方がどのような効果をもたらしているかを捉え、また、登場人物の心情を考えて朗読に生かすことができるようにする。そして、物語の構成や展開、表現の仕方、登場人物の心情に着目して、物語の終わり方について討論する活動を通して、根拠を明確にして自分の考えを述べ合うことができるようにする。

これらの学習を通して、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができるようにしたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・場面の展開や表現の仕方の工夫について考える学習に関心をもち、意欲的に作品を読もうとしている。	・場面の構成や展開、表現の仕方や登場人物の心情を根拠として、自分の考えをまとめている。	・古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像している。

5 単元の指導計画（5時間扱い）

次	時	学習内容	評価規準
一	1	・「平家物語」のあらましを知り、作品の全体像を捉える。	【国語への関心・意欲・態度】 ・場面の展開や表現の仕方の工夫について考える学習に関心をもち、意欲的に作品を読もうとしている。（観察）
	2	・「那須与一」を読み、本文中の言葉を手がかりに与一の心情を考える。	【言語についての知識・理解・技能】 ・古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像している。（ワークシート）
二	1	・「那須与一」、「弓流」をそれぞれ読み、構成や展開、表現の仕方、登場人物の心情を考える。	【読む能力】 ・「那須与一」、「弓流」を比べて読み、場面の構成や展開、表現の仕方、登場人物の心情をまとめている。（ワークシート）
	2 (本時)	・小学六年生に「扇の的」の魅力を伝えるとしたら、作品の終わり方はどのようにしたらよいのかを考える。	【読む能力】 ・魅力ある作品の終わり方について、根拠を明確にして、自分の考えをまとめている。（三点セット思考ツール）
	3	・作品の終わり方について、ワークシートに書かれた意見を基に討論会を行う。	【読む能力】 ・物語の構成や展開、表現の仕方、登場人物の心情に着目し、物語の終わり方について自分の考えをまとめている。（観察・ワークシート）

6 本時の学習

(1) 目標

作品の終わり方について、場面の構成や展開、表現の仕方、登場人物の心情を根拠として、自分の考えをまとめることができる。

(2) 準備・資料

ワークシート，辞書，書き込み用本文プリント，三点セット思考ツール

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点と評価（評価は㊦）
1 本時の学習課題をつかむ。 終わり方提案プランについての考えをまとめ，討論会の準備をしよう。	・ 黒板掲示物を貼り，本時の学習課題を読み，本時の流れを確認して，見通しをもてるようにする。
2 前時までの学習を振り返る。	・ 前時までの学習で出てきたキーワードを確認して，学習内容を振り返る。
3 二種類の終わり方提案プランについて知り，どちらのプランを担当するか，役割分担をする。 「小学六年生に『扇の的』の魅力を伝えたら，どちらのプランがよいか。」 ・ 提案プランA「与一が扇の的を射抜いた場面で物語を終える」 ・ 提案プランB「舞を舞った男が射殺された場面をあえて入れる」	・ 生活班の中で，プランA・Bに分かれて役割分担することで，班の中で意見が対立するようにする。 ・ 自分が担当するプランのよさについて，ワークシートを活用してまとめることができるようにする。 ・ 次時の討論会を終えた後に，どちらのプランがよいのかについて，自分の考えで最終決定をすることを伝えておくことで，自分の考えをまとめていくことを意識して見通しをもって学習できるようにする。
4 作品の終わり方について，構成や展開，表現の仕方，登場人物の心情から考える。 (1) 個人で考える。 ・ 主張・根拠・理由づけ ・ 想定される反対意見 ・ 想定される反対意見に対する反論 (2) グループで考える。 ・ 個人で考えた根拠と理由づけを発表し合う。 ・ 想定される反対意見について話し合う。	・ 三点セット思考ツールを活用することで，「構成や展開」，「表現の仕方」，「登場人物の心情」の三つに着目して，考えをまとめることができるようにする。 ・ 根拠が見つからない生徒に対しては，前時でまとめたワークシートを参考に見つけるように助言する。 ・ 自分が担当するプランとは違う立場になって考えることで，自分の主張に説得力をもたせることができるようにする。 ・ 同じプランを担当している人でグループを編成し，意見交換をすることで，自分の考えをより深めることができるようにする。 ・ グループで意見交換をすることで，自分一人では気付かなかった考え方に触れることができるようにする。
5 プレ討論会を行う。	㊦魅力ある作品の終わり方について，「構成や展開」，「表現の仕方」，「登場人物の心情」を根拠として，自分の考えをまとめている。 <u>読</u> （ワークシート） ・ 生活班に戻り，プレ討論会を行うことで，さらに自分の考えを深めることができるようにする。
6 本時の振り返りをする。	・ 「構成や展開」，「表現の仕方」，「登場人物の心情」の三つから採った根拠を明確にして，自分の考えを発表できているかを確認する。 ・ 単元シートを活用し，本時の学習を振り返る。根拠と理由づけにつながりがあったかについて，自己評価できるようにする。 ・ 次時は，討論会を行うことを伝え，本時とのつながりを意識できるようにする。